

歴史探訪

クラブ

History Inquiry Club



文化財課 ☎23局 3635
FAX 22局 3811

縄文時代の巨大なマツリの間 保美貝塚のなぞ①

田原市には、縄文時代の終わりに作られた吉胡貝塚（国指定史跡）と伊川津貝塚（県指定史跡）、保美貝塚があります。これらの貝塚は、渥美の三大貝塚と呼ばれ、亀山町の川地貝塚を含め、縄文時代の人や墓の研究で大きな成果をあげ、渥美半島だけでなく日本を代表する縄文時代の貝塚として有名です。

最近はその中で保美貝塚（保美町）が熱いです。それは、発掘調査

による発見や、過去に見つかった遺物の調査で驚くべきことが分かってきたからです。

保美貝塚は、3つの貝塚が円形に並んでいることが知られています。平成22年度に、その中心部を発掘したところ、驚くべき遺構が発見されました。それは、地面に掘られた直径1m、深さ0.7mの柱

穴が9個、円形に並んでいたのです。遺構とともに見つかった遺物は、縄文時代晩期後半（今から約2500年前）の、保美貝塚が最も栄えていた時期です。直径40〜50cmの柱の痕跡も確認でき、柱列の直径は7.5mほどでした。

このような遺構は、石川県いしかわの真脇遺跡、チカモリ遺跡など、主に北陸地方で見つかっています。東海地方では、このような木柱列の報告例はありませんので、発掘が進み徐々に穴が円形に並んだ時は信じられませんでした。木柱列は、高床式の建物や住居、トートム

ポールのような記念物が考えられますが、定説にはいたっていません。

この遺構の重要なことは、北陸地方を中心とした地域でしか見つかっていない、分布地域が限られた巨大な建造物であることです。

北陸地方と同じ遺構が、なぜ突如として遠く離れた渥美半島に、それ



●円形に並んだ縄文時代の柱穴（保美貝塚）

も保美貝塚で見つかったのでしょうか。北陸地方との特別な交流があったのでしょうか。また、このような巨大な柱を立てるためには、木の切り出しから運搬、埋めるための穴の掘削、柱を立てるなどの膨大な作業があり、多くの人が携わらなければなりません。保美貝塚のムラがいくらか大きいといっても、現代の集落に比べれば小さく、ムラの人々だけで作ることは無理です。他のムラの人たちとの共同作業で作られたに違いありません。

なぜ、共同作業を行ってまで作らなければならなかったのか。なぜか深まるばかりです。

・・・その2につづく

（増山）

今月の「表紙」

▼今月号の表紙は、産直レシポでおなじみの広報サポーター「たね」さんとの共同制作です。ポテトサラダで円錐の形を作り、ブロッコリーとミニトマトを飾れば、クリスマスツリーに大変身。アイデア一つで、食卓がもっと楽しくなることを教えていただきました。わが家でも作ってみたいと思います。(O)

【表紙の写真】田原産の野菜などで作ったツリー